

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質・能力を育成することを目指す。

日立市立多賀中学校

1 はじめに

本校では、特別活動の目標のもと、生徒が主体となって自発的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら、学校行事の企画と運営等を行っている。

2 資料（実践事例、写真等）

（1）生徒総会

本校では、毎年5月に常任委員会の役割や活動内容の説明や校則等の決まり事を改善したり、規則の大切さを再確認したりするために行う大切な機会として生徒総会を行っている。生徒主体の行事となるように、以下の手順で実施した。

- ①「学校生活を送る上で、疑問や改善すべき点はあるか」という課題に対し、全校生徒に主体的に参加してもらうための方法を生徒会役員が話し合った。その結果、**Microsoft Forms**を用いてアンケート調査を行うことで、意見を発することに苦手意識を持つ生徒へのフォローを行いつつ、効率的で全校生徒参加型の集計ができるようにした。
- ②生徒会本部で集計し、生徒からの意見を受け止めつつ、「なぜ今までそのような校則があったのか？」「その意見が通った場合にどのような心配があるか？」等を話し合い、当事者意識を持たせながら考えさせた。また、職員会議でも話し合い、即座に回答できるものは学級で担任より回答し、議論の必要性がある内容を精査し、議題としてまとめる。
- ③学級会にて、賛否や心配なこと、予想される問題とその改善方法等を公平公正の意識の元、話し合った。
- ④生徒総会本番にて、全体で意見交換をしながら、必要なルールを決めた。



3 成果と課題

○成果

- ・学校生活の中の疑問や改善点等の意見を集約するために **Microsoft Forms** を利用することで、短時間で集計を完了し意見の偏り等の分析をグラフから読み取ることができた。また、意見を発することが苦手な生徒への助けとなり全校生徒が参加する行事となった。
- ・現在の校則を見直すことで、なぜ規制されているのか？この規則がなくなるとどのようなこととなるのか？等の考えを生徒それぞれが持ち、話し合いを深めることで、校則の大切さや必要性を再確認することができた。
- ・教師がフォローしつつも生徒主体での議題設定や話し合い、可決まで行うことができたことで、生徒それぞれが当事者意識を持ち、生徒主体の活動ができた。

○課題

- ・生徒主体の話し合いでは予想外の意見や話題が出てくることがある。その際、議長団は臨機応変な対応と公平公正な進行が求められるので、生徒が落ち着いて、自信をもって対応することができるよう、事前指導をさらに充実させていきたい。